

## 摂食・嚥下委員会

代表 矢澤 展子

### 活動内容

2020年度より委員長を脳神経内科医の細見直永が就任し、6月からは摂食嚥下支援加算の算定を開始しました。

目標は①部署内のスタッフに対し、安全な口腔ケアができるように指導ができる②自部署の問題抽出や嚥下機能に問題のある患者の把握ができるに重点をおいて、委員会の開催を行ってきました。委員スタッフがチェックリストを使用し、50名の新人看護師の実技チェックを終えました。口腔ケア物品については、当院で主に扱っている物品の選択が正しく出来るようシートを作成し活用するよう周知しています。自部署の病棟内の経腸栄養患者数と、経口へ移行できた患者数やその背景を調査し、現状把握に努めました。また窒息歴のある患者や窒息リスクの高い患者の把握ができるようシステムの構築や、その評価を継続して行い改善対策につなげています。新型コロナウイルスの影響で9名の参加と小規模ではありましたが、今年度も口のリハビリテーション認定講座を開催しました。患者体験をすることでポジショニングの重要性や介助で食べることの難しさなどを知り、参加者からは好評をいただきました。(図1)

嚥下機能評価フローチャートの使用は2年目となり改定を行いました。より安全に行え、どのスタッフでも評価できるようさらなる普及に努めていきます。

### 実施内容

2020年の摂食機能療法算定件数は、図2に示します。摂食嚥下支援加算件数は85件、嚥下内視鏡検査は53件、嚥下造影検査は67件の実施でした。

院内通信「もぐもぐごっくん通信」は44~52号を発行しました。委員スタッフの持ち回り制を継続し、それぞれの立場で摂食嚥下に関わることを発信しました。



図1

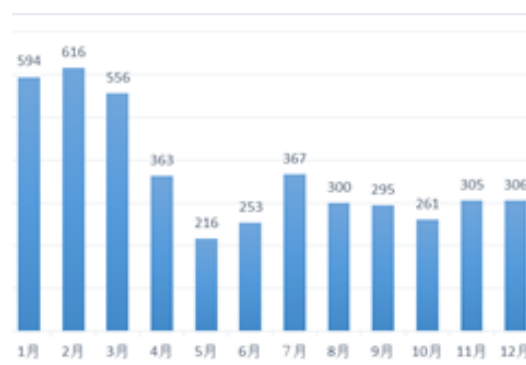


図2 摂食機能療法算定件数

### 次年度の課題

患者さん一人ひとりの清潔な口腔環境の維持に努め、スタッフへの口腔ケアの指導の継続を行ない、肺炎や窒息などのリスクの低減に関わっていきます。摂食嚥下障害が疑わしい患者さんには、フローチャートを使用し積極的に嚥下機能評価を行ない安全な環境を提供します。

口のリハビリテーション認定講座は、実技を交えて開催し患者さんの立場を経験することで、よりよいケアに繋がられるようにします。